

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2775600675
法人名	有限会社 五和会
事業所名	グループホーム平和苑
所在地	泉南市樽井1丁目6番1号 (電話) 072-485-2424
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 20年 8月 1日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 14.21人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	800円 / (1日)	
敷金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要 (平成 20年 7月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	5名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.7歳	最低	78歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人野上病院(医科)、高松歯科医院(歯科)
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

隣接する医療法人が同系列で営利法人を作って運営するグループホームで、「地域の中で、普通で当たり前の生活を送り、その人らしく、豊かに、楽しく過ごし、ともに支えあい、寄り添う暮らしを支援します」を理念とし、「私らしく、ゆたかに、楽しく」をスローガンにして、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は、毎週業務目標を立てて業務に取り組み、取り組む意識や向上心は高く、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。利用者は医療連携している母体病院の医師と看護師による必要な医療と看護を受けています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。介護計画は新制したケアチェック表を使用し、毎日介護計画の実施状況を確認し、ケアマネジャーが評価を行っています。家族や利用者も出席するサービス担当者会議で検討し、見直しにつなげています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、管理者の原案に全職員が意見を出して、完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は泉南市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、介護者家族の会会長、家族、利用者の参加のもとで、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況、利用者の生活ぶり、生活リハビリや車イストレーニング、事故の状況、ボランティアの指導による「布草履教室」、地域のグループホームとの職員や利用者の交流等について説明して意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。月に1回、「平和苑だより」を発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動を紹介し、個別外出した時は個人別にその様子と管理者がホーム内の近況報告を載せて送付しています。家族とは面会時だけでなく、介護計画作成時にも利用者と共に話し合いを実施しています。家族会の際にはアンケートもとって、家族が思いや希望、不満を現せるように対応しています。またホーム内には意見箱も設置しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが開催する花火大会やボランティアが指導する「布草履教室」に地元の人を招待したり、利用者が地域の幼稚園の運動会や生活発表会に参加したりしています。また、ホームの新年会のために練習した「創作劇」や「和太鼓・ハンドベル演奏」を地域で外部出演したりして交流し楽しんでいます。
重点項目④	

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で、普通で当たり前の生活を送り、その人らしく、豊かに、楽しく過ごし、ともに支えあい、寄り添う暮らしを支援します」を理念とし、「私らしく、ゆたかに、楽しく」をスローガンにして、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。週1回のミニカンファレンス、月例の勉強会やサービス担当者会議、日々の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。理念である「当たり前の生活を送る」を実践するため、生活リハビリとレクリエーションに力を注いでいます。介護者家族の会の新年会では利用者が「創作劇や和太鼓・ハンドベルの演奏」を発表しましたが、準備段階から職員と一緒に大道具の製作や練習を行い大きな感動と楽しみになりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>ホームが開催する花火大会やボランティアの指導で布製の草履を編む「布草履教室」に地元の方を招待したり、利用者が地域の幼稚園の運動会や生活発表会に参加したりしています。また、ホームの新年会のために練習した「創作劇」や「和太鼓・ハンドベル演奏」を地域で外部出演したりして交流しています。すでにホームの行事を記したビラを配ることから始めていますが、今後はホーム周辺地域の地元住民との交流もできるよう、さらなる働きかけをすることが望まれます。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。介護計画の見直しに向けて、新しくケアチェック表を作成し、介護計画の実施状況を点検・確認しています。またケアマネジャーが毎月達成度評価を行い、家族と利用者も参加するサービス担当者会議を確実に実施し、評価を行い、家族と利用者も参加するサービス担当者会議を確実に実施し、評価・見直しにつなげています。自己評価については、管理者の原案に全職員は意見を出して完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は泉南市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、介護者家族の会会長、家族、利用者の参加のもとで、おおむね2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況、利用者の生活ぶり、生活リハビリや車イストレーニング、事故の状況、ボランティアの指導による「布草履教室」、地域のグループホームとの職員や利用者の交流等について説明して意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉南市の担当職員とは常に相談や情報交換を行ってサービスの向上に取り組んでいます。地域のグループホーム間で、職員や利用者の相互研修や交流を実施することを提案し、実現しつつあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。月に1回、「平和苑だより」を発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動を紹介し、個別外出した時は個人別にその様子と管理者がホーム内の近況報告を載せて送付しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、ケアプラン作成時にも利用者を交えて一緒に話し合い、家族会の時にはアンケートをとって、家族の思いや希望、不満を現せるように対応しています。ホーム内には意見箱も設置しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者と職員は、毎週の業務目標をミニカンファレンスで具体化して取り組むなど、業務に取り組む意識や向上心は高く、この1年間職員の退職も少なくなっています。職員の異動も「平和苑だより」に載せ、家族にも好印象を与えています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に沿って毎月の業務目標を決め、毎週のミニカンファレンスで具体化して取り組んでいます。毎月、勉強会を実施し、計画的に決めたテーマについて研修しています。外部研修にも積極的に職員を派遣し、伝達研修をしています。新人職員の採用時研修も計画的に実施されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのサービスの質の向上を目指し、泉南市のグループホーム間で職員交換研修と利用者交流を行うことを提案し、具体化しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が家庭を訪問することもあります。また利用者や家族がホームに来訪し、ホームでの生活を体験したりして家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。菜園での野菜づくりの得意な方、釣り好きで魚をさばける方、元駄菓子屋で計算上手な方、芝居好きな方等、利用者の得意分野で、家事や行事の機会を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「プロフィール&なんでも情報」のシートに、毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や意向・思いに関する職員の気づきを追加記録し、6ヶ月毎に見直し・整理をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を反映させ、介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。新しくケアチェック表を作成し、毎日職員全員で表を使用しながら実施状況を確認しています。さらにケアマネジャーが毎月達成度評価を行い、家族と利用者も参加するサービス担当者会議を確実に実施し、見直しにつなげています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は医療連携している母体病院の医師と看護師から、毎日必要な看護を受け、できる限り入院せずホームでの生活を続けるための適切な医療と看護も受けています。家族の依頼により、必要の都度通院介助も行っています。話し相手や布草履の先生など、地域のボランティアからの支援も受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院の各科の医師による往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前の、かかりつけ医療機関から引き続き医療を受けています。母体病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームで重度化した時や看取り実施時の指針を家族に説明し、同意を得ています。状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行い意向の確認を続けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。利用者の起床時間に合わせて朝食の時間を柔軟にし、夜間の入浴を実施しています。急な買い物希望や普段行けないところへの個別の外出希望にも対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎食ホームで調理しています。利用者の希望を聞き作成した献立表に従い、買い物から、食事準備、下ごしらえ、調理、盛り付け、後片付け等の一連の作業に利用者も得意な分野で積極的に参加しています。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。菜園で収穫した野菜が食卓にのることもあります。個別の外出の機会に外食することもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回程度の入浴を実施しています。利用者の希望に応え、2日に1度夜間の時間帯に大浴場でゆっくり寛いだ入浴を楽しんでもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。最近まで習っていた水彩画をホームに飾ったり、パッチワークのテーブルクロスや暖簾を作ったり、お抹茶をたてたり、布草履を作ったり、菜園の作業をしたりして楽しんでいます。またリビングの手すりを利用した下肢筋力強化のためのリハビリや、車椅子自走トレーニングの支援を行い、利用者の気晴らしになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、福祉施設周辺の桜並木や池の散歩、スーパーでの食材の買い物、コンビニでのおやつの買い物等を楽しんでいます。隔月に利用者個別での買い物や外食、遠方の公園へのドライブを楽しみ、歌舞伎観賞や銭湯に出かける方もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表玄関やフロアドアについては日中の時間帯は施錠されていません。外出への希望には見守りで対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、災害発生時マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を実施しています。非常・災害時の食料品と水の備蓄については準備していますが、「非常用備蓄マニュアル」を作成し、備蓄の確認をされてはいかがでしょうか。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の一日の食事摂取量と水分摂取量を記録し把握しています。栄養バランスについては、母体病院の管理栄養士のアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには利用者が描いた水彩画や手作り作品の布草履、パッチワークの暖簾等が飾られベンチもあって、訪ねやすい雰囲気となっています。リビング兼ダイニングルームは広く開放感があり、食卓以外にソファのコーナーや暖簾で仕切られた廊下の端のテーブルと椅子席が寛げる居場所になっています。壁には創作劇で使用した大道具の「桜の木」に「利用者の顔の花」が咲き誇っている大型作品が貼られ、大切な思い出の品となっています。ホーム内は楽しく、また落ち着いた雰囲気となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口には手作りの表札がかかり、窓は大きく明るい部屋になっています。居室にはホームが提供している洋服ダンスや整理ダンス、テレビのほか、机、椅子、時計、手作り作品、自作の水彩画、家族の写真等使い慣れた馴染みのある物を利用者が持ち込み、個人的で安心して生活できる空間になっています。		